

# 諫早干拓農地 深刻な排水汚濁



6月22日、諫早市民ら有志は、諫早干拓中央干拓地を視察した。中央干拓地のいたる所で、慣熟しないままの家畜(牛・豚・鶏)糞堆肥が野積みされ雨ざらしにされている。従来から諫早市民らから、野積みされた家畜糞による排水汚染のおそれが指摘されていたが、実際に、干拓地内の側溝には家畜糞によって褐色に染まった排水が流れ出ており、市民らの懸念が現実化していることが分かった。

## 「焼け石に水」の浄化対策

国会通信第12号で取り上げたように、諫早干拓調整池の水質は、環境基準を大幅にオーバーしており改善の見込すら立っていない。



諫早干拓調整池水質(4月)

	環境基準	調整池
COD	5	11.5
SS	15	114
全窒素	1	1.2
全リン	0.1	0.22

単位 mg/L



農水省は排水の浄化対策として、中央干拓地排水路に浄水場発生土を敷き詰めてリンを吸収させようとしている。これは、浄水過程で発生するアルミ成分を含んだ廃土のリン吸着能力を利用したものとされている。しかし、現実には、浄水場発生土の多くは排水と一緒に流されてしまい、干拓地の排水は僅かに残った浄水場発生土の上方を素通りして、濾過されないまま調整池に流れ込んでおり、農水省が実施する浄化対策には疑問が残ると言わざるを得ない。(左写真の黒い塊が浄水場発生土)

## 「開門」こそ農業と漁業の両立

### 市民による監視

#### もう農水省は信用できん

諫早市民らは、営農開始までには環境基準を達成すると約束したにも関わらず、逆に水質を悪化させ続けている農水省の姿勢を信用できないとして、干拓地の排水について独自の監視体制をとることを決意した。

昨年同様、梅雨明け以降、調整池に毒性の強いアオコが蔓延することが予想されており、国民の生命健康維持の観点からも農水省には抜本的な水質改善が求められている。

### 何も解決していない

#### 連日報道、問題山積の諫早

大手新聞各紙と西日本新聞や佐賀新聞等現地の新聞は、連日、諫早干拓を巡る問題について特集を組んで掲載している。

ギリチンから11年を経て干拓地での営農が始まったものの、環境破壊や漁業被害、県民の財政負担等の問題が山積みそのまま、問題の解決を図ろうとしない農水省の姿勢に国民の厳しい目が注がれている。